

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100461		
法人名	特定非営利活動法人わたぼうしの家		
事業所名	グループホームさんぼみち		
所在地	釧路市千歳町13番7号		
自己評価作成日	平成24年12月16日	評価結果市町村受理日	平成25年3月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100461-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大森新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成25年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている全員が満足した生活を送っていただいているかは難しい。しかしグループホームさんぼみちが入居している9人の生活の場であることを職員が認識し、良いケアを提供するために理念や、ケア方針で一致できるように研修などを重ねている。また、長年暮らしてきたその人らしい暮らし方を大切にホーム全体がくつろげる環境を作っている。その日の本人の気分ですりたいところ、安心できる居心地の良い場所づくりに努めている。1日も長く健康でいていただくために、美味しいものを食べていただく、職員は本人がわかること、できることを理解し一緒におこなう事に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春採湖の西湖畔に位置し、木造平屋建て、中央に2方向の対面式台所に面して共有の居間と食堂がある。居間に面して2箇所の交流スペースと、食堂に面して1箇所の交流スペースがあり、各交流スペースに面して3箇所の利用者の居室があり、各部屋の窓や天窓から日が入りほど良く明るい。対面式台所から利用者が行動する全室が見通せ、コンクリート敷き土間のサンルームは、床が広く餅つきにも利用されている。町内会に加入して地域の行事に参加したり、事業所行事に地域住民やボランティアが参加して相互に交流を深め、災害時には地域住民の協力体制がある。職員は年間職員研修計画に基づいて研修を受け、サービスの質の向上に反映させるとともに、人材育成に力を注いでいる。4つの約束(大声を出さない、走らない、言葉に気をつける、目線を同じにする)を実践しており、家族やかかりつけ医、訪問看護師などの協力を得て看取りを経験するなど、質の高いサービスを提供している。高齢化で介護度は高いが利用者の表情は明るく、出来る範囲で調理の盛り付けや後片付けなどを行っている。利用者は、家族、地域住民、職員に見守られながら、その人らしい思い思いの生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55まで日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「共に支え合い、安心して老いられる地域づくり」をグループホームが地域密着型事業であることを踏まえホームの理念とし共有し、実践している。	運営方針である「地域の一人として生活するための支援」の他、さんぽみちの独自理念「一人ひとりの尊厳を守り、より豊かな人生を送っていただく」を作り、その実践に日々努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	開所から地域の人の助けを借りながら事業を行っている。行事での参加や通信の配布等でホームを理解してもらう事に努めている。	町内会に加入して盆踊り、清掃などの行事に参加し、屋外パーティ、餅つき大会などの事業所の行事に地域住民やボランティアが参加して相互に交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームが地域の人にとって行き来しやすい場所となるような工夫や認知症に関しての相談等を積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームで行われていることの報告や課題を運営推進会議に出して、意見を求め実践に活かしている。	地域住民、地域包括支援センター職員、有識者や家族が出席して年6回開催しており、事業所の現状やヒヤリハット、ホーム内研修や職員の外部研修受講状況、行事や家族会開催結果について報告し、助言を得て記録し、結果を職員会議で話し合い改善に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	釧路市の担当者と連絡を密に取りながら良好な関係を築き、特に釧路市で行っている研修を受け入れるなど協力させていただいている。	市担当課を定期的に訪問して、事業所や利用者の状況について報告して指導を得ている。市は事業所を介護研修の実地研修事業所として利用している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修及び外部研修をすることで意識を高め「身体拘束をしないケア」に努めている。現在、夜間 ベットから転倒の恐れがある方をベット柵で拘束を行っているが、業務日誌に記載している。	年間の職員研修計画に基づき外部及び内部研修を実施して「身体拘束をしないケア」の実践に取り組んでいる。玄関は防犯上夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員は高齢者虐待防止法等について学び、また虐待を引き起こす不適切ケアをしない様研修を重ね、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及び職員は権利擁護に関する研修を受ける機会は少ないが成年後見人が付いている入居者を通して理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約あるいは制度改定等の際は利用者や家族が納得いくよう十分な説明を行い、理解していただき必要に応じては同意者ももらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見や要望を表出できる様家族会への参加などホームへ来訪していただく機会を多くし、出された意見は運営に活かしている。	日頃から家族が訪問しやすい雰囲気をつくり、気軽に会話を交わし、意見や要望を聞いている。年6回家族会を開催し、意見や要望を受けて記録し、職員会議で検討し改善に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して職員がしている。自由に提案できるように配慮し、具体的なことについては職員会議等で話し合い実践するように	毎月1回職員会議を開催し、運営状況について話し合っている。管理者は職員が気軽に話し合う場となるように気遣いして、職員の提案を受け入れて改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるよう職場環境等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が質の高いケアをするためには研修を受ける機会を確保し、意見の交換が出来る環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での研修等を通して職員間の交流が行われている。研修修了者でネットワークづくりや勉強会も行われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームに入居する段階で本人の不安や要望に耳を傾けながら、本人に安心していただくための関係づくりに努めた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の開始時、家族等がそれまで困っていたことや不安なことを聞き、関係性を築きながらこれからの信頼に結びつけてきた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居段階で本人のわかる事わからない事、出来る事出来ない事を理解把握し、その人らしく暮らせる支援の対応に努めた。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者本人とグループホームで様々な事を共有する者としての関係を築くことに努めてきた。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者にその人らしく暮らしていただくためには職員と家族の関係が良好でなければならない事を理解している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの馴染みの関係が途切れないように、付き合いのある人との関係支援に努めている	高齢化に伴い馴染みの関係継続が途切れないよう、利用者との日々の関わりで、表情や言葉から馴染みの人や場所の把握に努めて介護記録に記載し、馴染みの関係の実現に向けて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一人も孤立することなく生活するために利用者同士の関わり合いが大切である。利用者同士の関係を把握しながら支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が退去しても家族との関係を保ち、必要に応じて相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人がその人らしく暮らすために本人の意向を把握し支援するように努めている	日々の表情や動作、会話で思いや意向を把握し、困難な場合は家族の情報から思いや意向の把握に努め介護記録に記載して共有し、実現に向けて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新しい暮らしの場に必要なのはこれまでの生活歴や暮らし方等を把握することが大切であり、そのために努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人がグループホームで自分らしく暮らすにはどのように暮らしたいか、その人の出来る事、心身状態を把握することに努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすためにセンター方式のアセスメントシートを使い、本人、家族、関係者で話し合い現状に即した介護計画を作成している	担当者が日々の状況を記載した介護記録を基に、利用者・家族の意向を踏まえて職員会議で検討して、介護支援専門員が介護計画を作成し、家族の承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人により良いケアを提供するために様々な情報を把握、共有しながら実践、また介護計画の見直しにも活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所では短期入居や共用型通所介護をおこなっているが1ユニットでは限界がある。法人で行う地域づくりに参加できるように取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊かに暮らすためにはホーム内だけでは限界があり、地域資源を活用していくことが求められている。具体的には地域の人がボランティアで関わってくれている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を聞きながら、かかりつけ医との良好な関係を築き適切な医療が受けられることが出来る様支援している	かかりつけ医への通院受診は家族が行っているが、家族の要請があれば職員が同行支援している。訪問看護師が隔週1回訪問している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護、さらに個人的に訪問を受ける看護師に情報を提供、必要に応じて相談し本人たちが適切な看護を受けることが出来るよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関しては病院関係者との関係づくりを行う事に努めている。またできるだけ早期に退院できるようにホームや本人の生活について情報を提供している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けてホームの方針等について家族会等で話し、具体的な段階にきた時は十分な説明をしながら支援している	重度化や終末期の対処についてマニュアルがあり、家族と話し合っ承認を得ている。内部外部の研修によって学習し準備を行い、実際に看取りの経験もし実践に活かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時に備えて必要な応急手当等を訓練している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	地域運営推進会議等で災害時の避難等について協力要請を地域に働きかけている	消防署の指導を受けて年2回訓練(うち1回は夜間を想定)を実施している。災害時の場合に付近住民の協力がある。	海に近いこともあり、災害時に備えて飲料水と食糧を、近くの高台にある法人事務所などの安全な場所に備蓄するよう期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	『ひとり一人の尊厳を守り』を基本理念とし本人の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に配慮している	職員研修計画に基づき内部研修を実施して「利用者の尊厳とプライバシーの確保」について取り組み、4つの約束(大声を出さない、走らない、言葉に気をつける、目線を同じにする)で利用者の尊厳を守るよう日々実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	暮らしの中でその人らしさが発揮できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームは入居者の“生活の場”であることを職員は意識し、本人の希望にそって支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは勿論、化粧品や装飾品等でおしゃれが出来るように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を一緒に行う事は食事を楽しんでいただけてくれる。そのための支援を行っている	利用者の希望を参考に献立し、咀嚼・嚥下状態に応じた内容を提供している。能力に応じ買物、後片付けをしている。職員と共に談笑して食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり一人の状態が常に安定するためには栄養バランス、摂取量、水分量等々の把握が必要である。病気のレベルが下がらないためにも十分な支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内を清潔にすることは気分を安定させ、病気を予防するためには必要である。十分な支援を心がけている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつをできるだけしないケアに努めている。本人の排泄状況を把握し、支援している	利用者の排泄時間をチェックして記録し、声掛けて排泄を促している。日中は出来るだけ布パンを使用し、リハパンは夜間だけにするようにして支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のため、様々な工夫をしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	入浴は平均週3回入れること、ゆったりと入浴を楽しんでいただく等々の個々に合わせた支援をしている	毎日入浴できるように準備をしている。最低週2回は入浴するように支援し、重度の利用者は2人で入浴介助している。入浴拒否者については強制せず、根気良く入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるよう居室の温度などに充分配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が使用している薬に関して理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている、		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人が毎日穏やかに喜んで生活できるように役割や、楽しみごとの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩ボランティアの協力によって冬でも湖周辺の散歩や、食材や生活用品等の買い物を入居者と一緒に行っている	日常的に春採湖周辺の散歩をし、食料などの買い物に出かけている。年間の外出計画をたて花見、外食、ドライブ、花火大会、盆踊り、動物園、紅葉狩り、展示会などに出かけて外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングなどで本人にはお金を所持していただき、買い物時出してもらうように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が馴染みの人との関係性を切らないためにも年賀状や手紙のやり取りができる様支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場として居心地の良い環境に配慮、工夫している	2方向の対面式台所から利用者が行動する全室が見通せるようになっており、窓や天窓から日が入って明るく、掃除も行き届き、ソファやピアノを置き、家族の希望で壁には全職員の写真が掲示されて、ゆったりとした居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所づくりは生活環境として大事な事であり、そのためにはどこにでも座れるように椅子を配置するなど工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室は本人が長年使い慣れたものや好みのものを活かし、居心地良く過ごせるよう工夫している	居室は窓から日が入って明るく、掃除も行き届き、好みの家具やベットを置き、壁には家族の写真や作品を飾り居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	ひとり一人がまだ「わかること」や「できること」を發揮し、その人らしい生活のために安全な環境づくりに努めている		